

須磨離宮公園の3つのバラ園

1 王侯貴族のバラ園 【噴水広場】 約10,000㎡

レストハウスから南大噴水まで左右対称にデザインされた欧風噴水庭園です。“ポセイドン像”の建つ広場やレストハウスからは、バラ園全体の眺望景観をひと目でご覧いただけますので、王侯貴族の気分をご堪能ください。植栽している約180種4000本のバラのうち約8割が四季咲き性のモダンローズですので、春バラの一斉開花と秋バラの芳醇な香りがお楽しみいただけます。また、前身の武庫離宮にちなみ、日本の皇室をはじめ世界の王侯貴族や著名人の名前を冠した品種をコレクションしています。バラ園を散策して、ぜひあなたのお気に入りのバラと香りを見つけてください。

※このバラ園の庭園様式はベルサイユ宮殿の庭園をモデルにしています。

2 世界殿堂入りバラ園 【中門広場】 約500㎡

ロンドンに本部を置く世界バラ会連合(約40カ国加盟)が、3年に一度開催する世界バラ会議。そこで参加国から推薦された品種から「世界殿堂入りバラ」が選出されます。「世界殿堂入りバラ」の選考基準は、姿や形、色、香りなどバラの特性だけでなく、“世界中どこでも栽培できる”ことが第一条件です。世界中のバラ専門家が栄誉を与えたバラたちは、実は育てやすく、手に入りやすい初心者向けの品種でもあるのです。長年広く愛されているこれら名花をまずは育ててみませんか。

※このバラ園では、歴代選出17種すべてを植栽しています。(H31現在)

3 バラの歴史と文化園 【中門広場】 約300㎡

バラは日本、中国、西アジア、ヨーロッパなど北半球にのみ野生種が自生しており、古くはギリシア・ローマ時代から薬用や香料として親しまれてきました。バラが観賞用として画期的に改良が進むのは18世紀です。東洋と西洋の交流史の中で、ヨーロッパに集められ、品種改良されたことで、多くの園芸品種が誕生しました(ナポレオン皇妃ジョセフィーヌが多に貢献)。このバラ園では、品種改良に貢献した各地域の野生種からオールドローズを経てモダンローズ誕生に至る歴史と文化を巡ることができます。

※例年5月初旬ころに春の一番咲きの野生種が最初に咲き始めるバラ園です。



バラの分類

※アルファベット記号(系統・分類)は世界共通

モダンローズ 四季咲き性 ※須磨離宮公園オリジナルローズ (2017年作出)

ハイブリッド・ティー 【記号 HT】 茜離宮※



大輪種。花の形が良く、一重咲きから八重咲きまである。花の直径:7~15cm程度

フロリバンダ 【記号 F】 プリンセス・ミチコ



中輪房咲き種。広い面積で統一感を演出するのに最適。花の直径:4~8cm程度

クライミング 【記号 Cl】 ビエール・ドゥ・ロンサール



つる性のバラ。成長が速い。誘引すると印象的な演出ができる。春の一番咲きが多い。

ミニアチュア 【記号 Min】

四季咲き矮性種。鉢植えやプランターに適し、ベランダで楽しめる。花の直径:1.5~5cm程度

シュラブ 【記号 S】

つるバラほど長く伸びない半つる性。春咲きが多いが四季咲きもある。

オールドローズ 【記号 Old】

※「バラのバトロネ」とも呼ばれるジョセフィーヌ皇妃ゆかりのバラ

香りや花の形が豊富。春の一番咲きが多い。モダンローズの誕生以前に改良、栽培されていた系統を指す。

- ① ロサ・アルバ・マキシマ
- ② バロン・ジロー・ドゥ・ラン
- ③ ソレイユ・ドール
- ④ スヴニール・ドゥ・ラ・マルメゾン※



スピーシーズ 【記号 Sp】

※須磨離宮公園ゆかりのバラ

自生している野生(原種)のバラで、世界に200種あまりある。大半が一重咲きで、春の一番咲き。秋にローズヒップ(バラの実)をつける種が多い。

- ① ナニワイバラ※
- ② ロサ・フォエティダ
- ③ コウシンバラ※
- ④ テリハノイバラ



参考文献: 藤岡友宏著「イラスト園芸シリーズ バラ」家の光協会 2000年

より詳しい内容は、
須磨離宮公園HP「バラ図鑑」を
ご覧ください。

<http://www.kobe-park.or.jp/rikyu/>

